

図1. 正常マウスおよびスクレイピー感染マウスからの PrP<sup>C</sup>, PrP<sup>Sc</sup>の検出

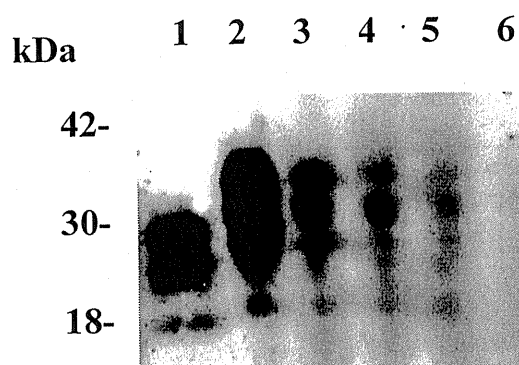


図2. 肉粕液中にスパイクしたPrP<sup>Sc</sup>の検出

1:マウスPrP<sup>Sc</sup>(PK消化), 2-6:感染マウス脳乳剤をスパイクした肉粕液。2:5ug, 3:1ug, 4:0.5ug, 5: 0.25ug, 6: 0.125ug当量のスクレイピー感染マウス脳乳剤(PK未処理)をスパイクした。

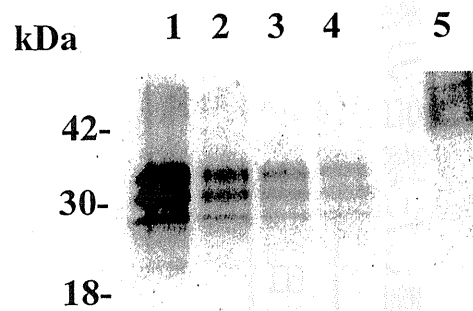


図3. アルカリ処理したスクレイピー感染マウス脳からのPrP<sup>Sc</sup>の検出

1-4: 感染マウス脳乳剤をスパイクした肉粕液からのPrP<sup>Sc</sup>の検出。1: 5 ug, 2: 2 ug, 3: 1 ug, 4: 0.5 ug脳当量のスクレイピー感染マウス脳乳剤(PK未処理)をスパイク, 5: アルカリ処理したスクレイピー感染マウス脳からのPrP<sup>Sc</sup>の検出(2.5 g脳当量)。

## 感染性の検出

PrP<sup>Sc</sup>の消失と感染価の関連については、マウスプリオン遺伝子を過発現させたマウス(tga20)(スクレイピー高感受性)を用いた動物接種試験で検証中

tga20マウスにプリオン(RML株)を脳内接種した場合の潜伏期 (Fischer, 1996)

希釈	発症/接種	潜伏期(日)
-1	1/1	69
-2	3/3	69±2
-4	3/3	87±5
-6	4/4	111±1
-8	0/4	>274

KOH処理した感染マウス脳(0.5g)より調整した試料を3匹のtga20マウスに脳内接種:接種110日後まで異常を認めず